

令和2年度 深草中学校 学校経営方針

学校教育目標 志を立て、その実現のために努力する人間の育成

目指す生徒像

- (1) 正しいことに自信を持ち、自分に厳しく、人に優しく、人権意識を常に働かせることができる生徒
- (2) 正確な発信・受信による意思疎通ができ、いろんな視点からの他者の意見を取り入れて自分を変容させることができる生徒
- (3) 情報を分析・解釈してまとめ、確かで豊かな知識を獲得できる生徒
- (4) 初めてのこと・未知のことにも思考・対話・協働をもって挑める生徒
- (5) 立てた目標に向かって自分をコントロールしながらねばり強く、見通しをもって計画・実践できる生徒
- (6) 心身の成長の基盤である睡眠・運動・栄養を大切に考え、生活の中で実践できる生徒

○本校の研究実践は、生徒を賢くたくましく育て、生徒同士や、生徒と教職員をより強い信頼関係で結ぶために行う。 ※賢さ・たくましさの中身は上「目指す生徒像」を参照。

○各教科では、新学習指導要領が目指す力・力の付け方に基づいてあらゆる授業を行い、それぞれの授業や行事で、生徒が学び甲斐を感じながら学ぶようにしてほしい。

- ・授業の出発点となる、一斉の傾聴、わかりやすい説明、必要かつ無駄のない板書は今も基本。
- ・どのような知識・技能を身に付けることが求められているのか、新要領も参照して授業を立案し、シビアに一つ一つの知識・技能を定着させる。
- ・どのようなことを思考・判断・表現させればいいのか、新要領も参照して授業を立案。
- ・知識・技能同士を関連付けさせ概念として理解させる中で、活用力、思考力・判断力・表現力を駆使させ伸ばす（知識の理解の質の向上、概念化された知識を活用して思考・判断・表現させる）。
- ・このために生徒各自に黙々と言葉や図でかき表させる課題と「振り返り方」を示した上での振り返りを書かせること効果的である（特に小・中・大単元末）。
- ・ペアや4人グループでの交流は、ねらいを明確にする。
- ・このような中で見られる生徒の記述や発言や行動に「認めの言葉」「プラスの評価」をわかるように示すことで、生徒の自己肯定感を高め、「主体的に学習に取り組む態度」を育ててほしい。
- ・国語科の初期指導で級友の話の要点を聞きながらメモするスキルを付け、他教科や総合的な学習の時間等でも、発表や交流の成立自体に満足感を抱いて終わらず、発表や交流の跡をノート等に残させてほしい。
- ・発表や交流は、感染症対策を行った上で実施する。

○総合的な学習の時間では、探究度を上げ、どんなことを学んだかを意識・言語化させる。

- ・「探究を促すシート」（仮）、「変容を促すシート」も用いて学びのプランニングや振り返りをさせる。
〔仮説・検証を繰り返すシート？〕
- ・ワークシートの記述を学年教員で分担して点検・評価し、次の時間の助言・修正に生かす。
- ・単元の節目として達成感を味わえるような学級単位を超えた交流会（ポスターセッションの会など）を行い、できれば他学年の生徒や教職員も参加・参観してほしい。
- ・交流のとき“相互評価”と称して、声の大きさなど伝え方に点数を付けさせるような評価カードは楽しさを減じ意欲を下げるのでやめてほしい。

○道徳科の指導（どの道徳的価値について、どの資料で、どんな問いで）と評価を充実させる。

○どんな生徒にも力を付けなければならないので、規律の指導と併せて支援の視点で、全ての生徒が学びやすい、気持ちが前向きになれる働きかけをし、全員を巻き込む授業をしてほしい。

○部活動は、たとえ顧問の望む量・思いのとおりの活動ができるわけではなくても、生徒のプラスになる活動にしてほしい。

○これまでの成功体験に縛られず、自分の望み自体や、その実現のための手法（最適・再短）を見直してほしい。（働き方改革）